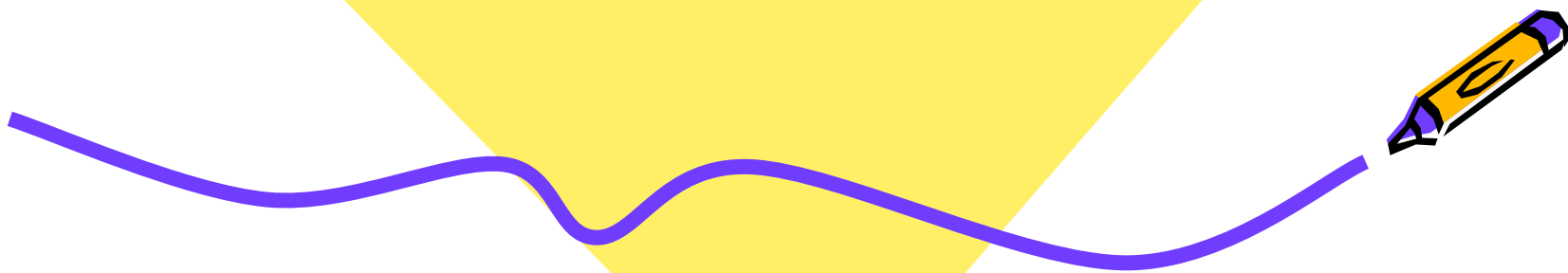




英語の アルファベットと発音の関係



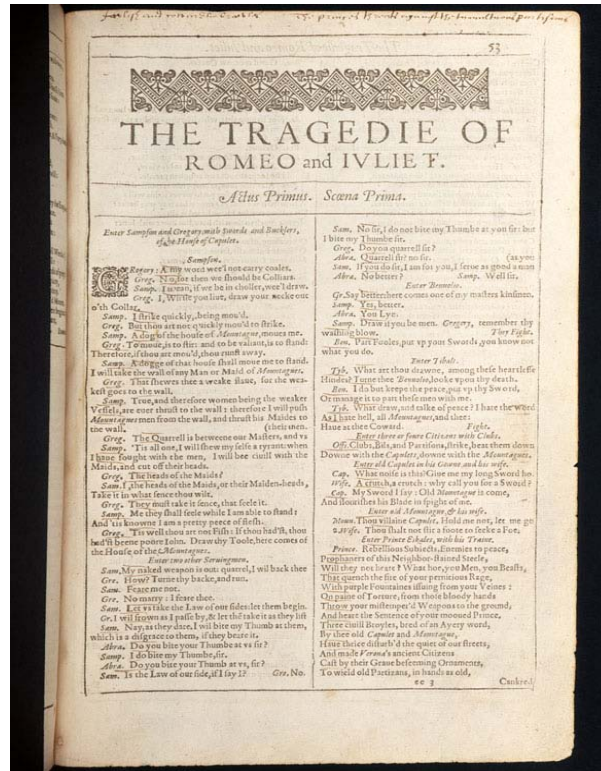


『ロミオとジュリエット』 をご存じですか？

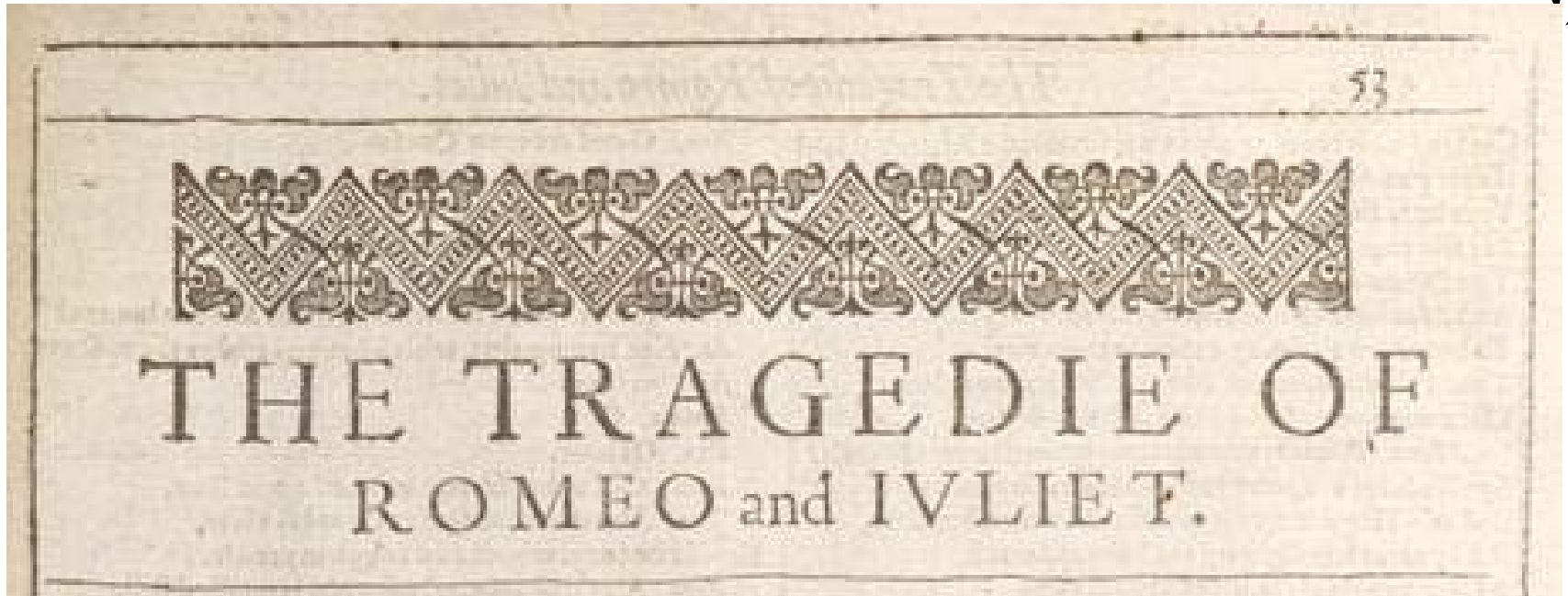
有名なシェイクスピアの作品ですよ



『ロミオとジュリエット』の 初版本です



でもタイトルをよく見て下さい



ROMEO and JULIET ではなく

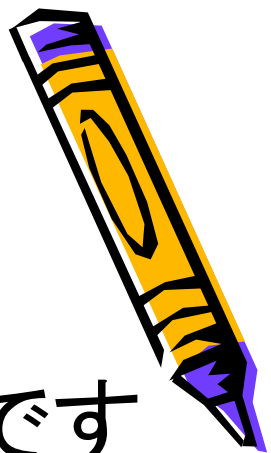
ROMEO and **IVLIET** ですね



実は **J I** **U V** は
文字として区別されてなかったのです

I U を母音として **J V** を子音として
使うようになったのは

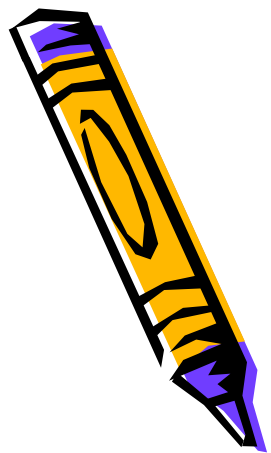
なんと**19世紀頃**からなのです



次に f というアルファベット

大昔のアルファベット f は
前後に母音がある場合には [v] と
それ以外の場合には [f] と
発音されていました

wife という単語は その当時
単数形が wif 複数形が wifes でした





したがって

wif の f は [f] と wifes の f は [v] と
発音されていたのです

この発音法が 現在の wife wives に
受け継がれているのです



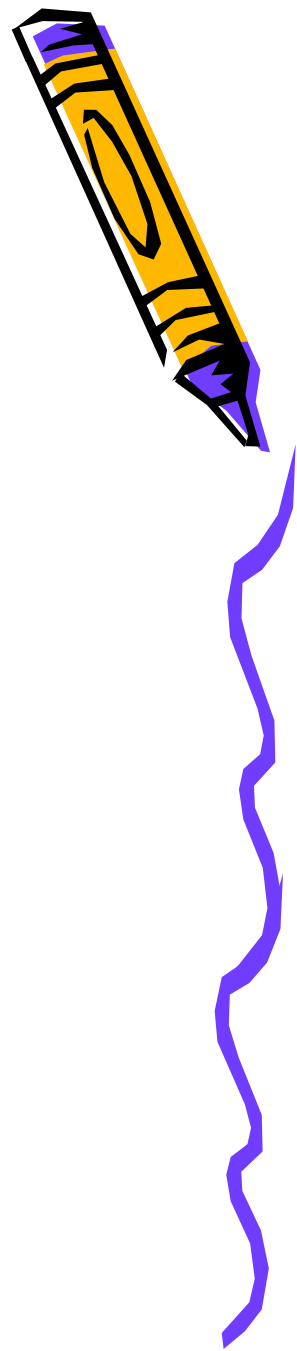
wife に関してもう一つ

英語の母音の発音は もともと
ローマ字式の発音でした

例えば

wif は [wi:f] と wifes は [wi:ves] と
発音されていました





しかし 長い母音は次のように変化しました

[i:] → [ai] [u:] → [au]
[e:] → [i:] [o:] → [u:]

ですから [wi:f] は [waif] に
[wi:vɛs] は [waivɛs] に

変化しました



次の単語の発音はどうでしょう？



cheese green agree see

choose noon cool school

ee は [e:] から [i:] にかわり

oo は [o:] から [u:] にかわりました

「ローマ字式発音」から ずれてきましたね





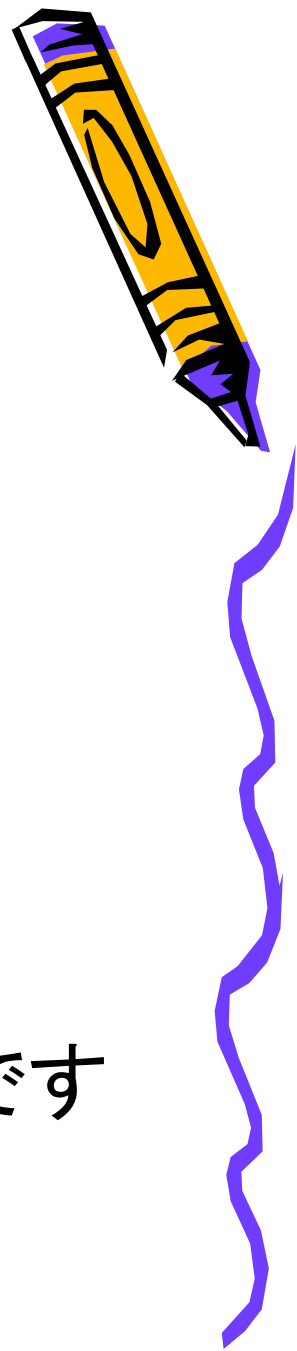
では **keep kept** はどうでしょうか？

もともとは [ke:p] [ke:pt] のような
発音でした

しかし 長い母音は連続子音の直前で
短い母音になりました

つまり [ke:pt] [**kept**] と変化しました





思い出してください

[e:] は [i:] に変化したのでしたね

ですから [ke:p] は [ki:p] となり

長い母音のない [kept] は

そのまま変化せずに残ったのです



最後にクイズです



five [faiv] と fifteen [fifti:n] は
どう説明できますか？

もともとの形は

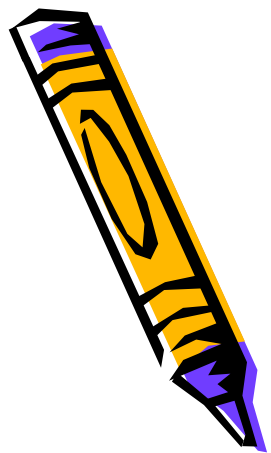
fife fiftene と考えて下さい

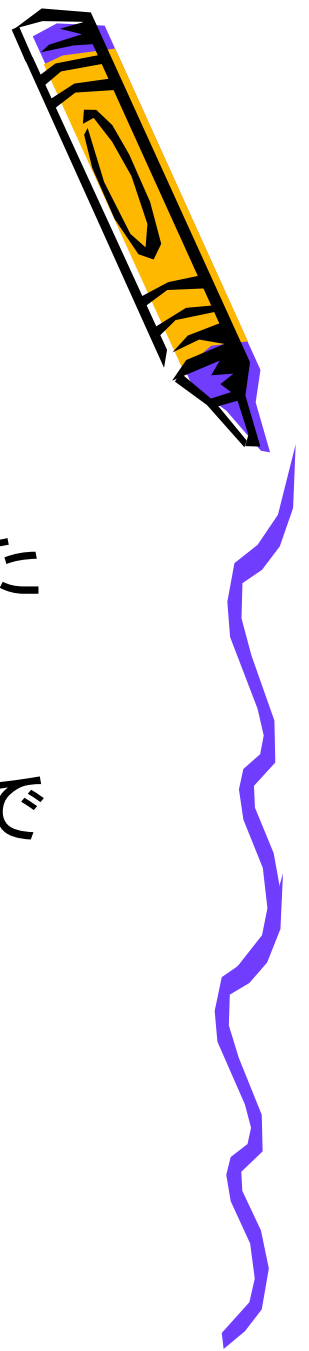


答えです

five の *f* は 前後に母音があるので
[v]と発音され 全体は [fi:ve] でした

これに対して *fiftene* の *f* は
母音に挟まれてないので [f] と発音され
全体の発音は [fi:fte:ne] でした





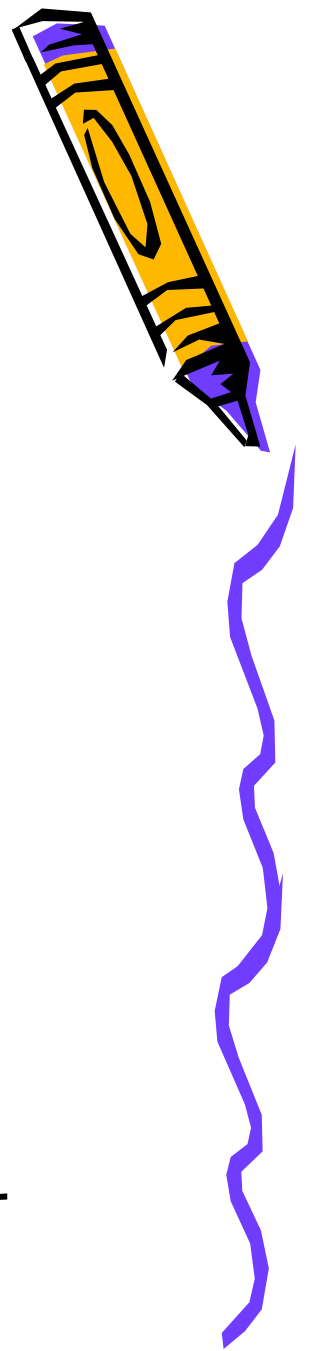
次に

連続子音直前の長い母音は
短い母音になるので

[fi:fte:ne] は [fifte:ne] になりました

ただし [fi:ve] は 連続子音がないので
このまま変わりませんでした





最後に [fi:ve] の長い母音 [i:] が
[ai] に変化し [faive] になりました

ただし [fifte:ne] の [i] は
短い母音なのでこのまま残りました

また [fifte:ne] の長い母音 [e:] が
[i:] に変化し [fitti:ne] になりました

そして最終的に five [faiv] と
fifteen [fitti:n] になったのです





このように 一見 理解しがたい
英語のアルファベット・発音の関係ですが
歴史を辿ってゆくと
理解できる部分も多いのです！！！！

